

教員名

栗原 正憲(代表)

企画名

淡路市仁井地区社会貢献活動・夏イベント(Nプロジェクト)

地域活性化型／イベント支援・運営型

企業／自治体・国
学校(教育機関)／住民組織



BBQおにぎり作り

BBQ

竹灯籠の準備

竹灯籠点燈

企画・活動概要

高齢化が進む淡路市仁井連合会とJPGA(日本グローバルアカデミー)留学生との交流を促進するため、本学学生たちが運営に参加して3団体共催で夏イベント「こないいとこ！仁井まつり」を開催する。

経緯・背景・目的

【経緯】淡路市仁井地区における社会貢献活動(Nプロジェクト)は、地元世話役の人形寺祥弘様(当時、公民館長)が人口減少と高齢化が進む地区の状況を憂慮し、知人であった中山一郎先生へ学生たちの力で地域活性化を後押ししてほしいと相談があったことから始まり、濱田恵一先生、栗原らが活動に賛同し本学でのNプロジェクト立ち上げとなった。淡路市仁井地区における社会貢献活動(Nプロジェクト)は、2017年度からスタートし今年度で3年目を経過した。継続した活動によって地元と本学学生たちとの厚い信頼関係が醸成され、学生たちの支援は地域活性化への大きな力となっている。

【目的】

- 1) 過疎地域の地方活性化へ学生たちの力を結集し社会貢献を果たす。
- 2) 活動を通して過疎化、高齢化の現実を体感し、学生たちの社会的課題認識を深める。
- 3) 学生たちが主体的に行動を起こし、社会人としての必要な実践的能力を養う。

取り組む課題

「第3回こないいとこ！仁井まつり」(納涼祭)を共催し、地域のみなさんとJPGA(日本グローバルアカデミー)留学生との交流促進と地域活性化を推進する。

本学(学生)の役割

- 1) 夏祭り総合司会
- 2) ミニ寺子屋教室の開催(講師:藤原喜美子先生)
- 3) BBQ大会(運営全般・会費徴収など)
- 4) 竹林伐採作業・竹灯籠の製作・点燈
- 5) イベント後の会場撤収作業と会場美化

活動結果・成果・学生が成長した点・学生が身につけた能力

【活動結果と成果】

2019年8月17日(土)16:00から「こないいとこ！仁井まつり」を開催。お祭りの来場者数は、BBQ会費(800円)の徴収や猛暑の影響があり144名であった。夏イベントには、本学学生46名+指導教員7名の53名が参加した。淡路市長や協賛企業の関係者にもお越し頂き、つながりの輪の力を感じる心温まるイベントとなった。

【学生の成長】

真夏の日中を避け、今年は夕方から開催の納涼祭としたが、学生たちが自由に企画した「ふれあい」を重点においたBBQ大会、竹灯籠を使った点燈など斬新な企画を実現させた。BBQ資材の準備や竹の伐採など地元の方々との協力を得るための調整には大変な苦労があった。学生たちは実現に向けてへこたれず粘り強く活動したことにより、かけがえのない達成感を味わった。また、企業への協賛要請活動を展開し成果を得たことは、社会人になっても大いに誇れる貴重な経験になった。

指導教員および関係者の紹介

◇指導教員

岩崎久志先生
中山一郎先生
高田 宏先生
辻本乃理子先生
藤原喜美子先生
濱田恵三先生

◇淡路市仁井連合会

新井英男様(仁井連合会副会長)

◇JPGA日本グローバルアカデミー

三谷展優様(JPGA代表)

◇自治体等関係者

門 康彦様(淡路市長)
原テツアキ様(兵庫県議員)

◇協賛企業

三井住友銀行 洲本支店様
伊丹産業 東浦支店様
(株)八嶋組仁井英長所様
淡路インターナショナルホテルサンブラザ様

教員名

栗原 正憲(代表)

企画名

淡路市仁井地区社会貢献活動・冬イベント(Nプロジェクト)

地域活性化型/イベント支援・運営型

企業/自治体・国
学校(教育機関)/住民組織



タイムカプセル

ペッパー君

大島ゼミハンドベル演奏

模擬店(高田・辻本ゼミ)

企画・活動概要

地方の過疎化・高齢化が深刻な社会問題化しているが、淡路市仁井地区では地域の方々の創作展示やステージイベントを通して地域のコミュニティづくりを目的に冬まつりを毎年開催し今年で33回目を迎えた。高齢化が進み今後の開催が危ぶまれる中で、地元からの要請を受けて本学学生たちが社会貢献活動として地元の「冬まつり」開催に協力・支援する。

経緯・背景・目的

【経緯】淡路市仁井地区における社会貢献活動(Nプロジェクト)は、地元世話役の人形寺祥弘様(当時、公民館長)が人口減少と高齢化が進む地区の状況を憂慮し、知人であった中山一郎先生へ、学生たちの力で地域活性化を後押ししてほしいと相談があったことから始まり、濱田恵一先生、栗原らが活動に賛同し本学でのNプロジェクト立ち上げとなった。淡路市仁井地区における社会貢献活動(Nプロジェクト)は、2017年度からスタートし今年度で3年目を経過した。継続した活動によって地元と本学学生たちとの厚い信頼関係が醸成され、学生たちの支援は地域活性化への大きな力となっている。

【目的】

- 1) 過疎地域の地方活性化へ学生たちの力を結集し社会貢献を果たす。
- 2) 活動を通して過疎化、高齢化の現実を体感し、学生たちの社会的課題認識を深める。
- 3) 学生たちが主体的に行動を起こし、社会人としての必要な実践的能力を養う。

取り組む課題

第33回仁井ふるさと文化祭の支援活動を通して地域のみなさんの元気と笑顔を創る。

本学(学生)の役割

- 1) 12:00~13:00 ステージアトラクション
- 2) 模擬店の出店(フランクフルト、ワッフル)と地元婦人会の模擬店出店サポート
- 3) 体力測定、ペッパーくんのデモンストレーション
- 4) タイムカプセル(10年保存)の掘り出し作業協力
- 5) ビンゴゲーム大会の企画・運営
- 6) アンケート調査の協力お願いと回収作業、会場美化、イベント後の撤収作業

活動結果・成果・学生が成長した点・学生が身につけた能力

【活動結果と成果】

2020年1月19日(日)第33回ふるさと文化祭開催。来場者数約160名。今年のイベントには、本学学生54名+指導教員8名の62名が参加した。タイムカプセルの掘り起こしに参加した廃小学校の卒業生や和太鼓の演技の若者たちなど、例年より若い来場者が目についた。本学の学生たちの参加には、地元の皆さんからの熱い期待と学生参加に感謝の声が多く聞かれた。「もう学生たち無しではお祭りが成立しない。お祭りが賑やかに撤収作業も学生たちの協力で早く終わった。」と驚いていた。

【学生の成長】

高齢の参加者が多く、コンビニやスーパーのない環境に驚く学生や地域はみんな顔見知り、田舎ならではの良い文化と感想を述べる学生など、人口減少・少子高齢化また一人暮らしのお年寄りが多くなっている現実を実感していた。

多くのゼミが合同参加するこの活動では、ゼミ間の情報共有や役割分担などの課題も多く、準備に大変な労力がかかるが、学生たちが自主的に会議をセットして準備を整えていく協調性が大いに発揮された。イベント当日も、手の空いている学生が進んで他のグループの作業を手伝ったり、「何かやることはないですか?」と積極的にコミュニケーションをとる姿が見られ、仲間づくりの良い機会となった。地域活性化のためにイベントを応援するという目的意識を持ってその達成へ真剣に取り組む学生が多かった。

指導教員および関係者の紹介

◇指導教員

岩崎久志先生
高田宏先生
辻本乃理子先生
中山一郎先生
大島秀武先生
藤原喜美子先生
濱田恵三先生
上田真由美先生

◇淡路市仁井連合会

新井英男(副会長)

◇JPGA日本グローバルアカデミー

三谷展優様(JPGA代表)

◇自治体等関係者

門康彦様(淡路市長)
原テツアキ様(兵庫県議会議員)